

# 統計学はお嫌いですか？ —スーパースター誕生の裏表—

中央大学 名誉教授 細野 助博

東京一極集中が問題視されて久しいですね。かつては「過密と過疎」の元凶として。でもその頃は全国的に経済も人口も伸びていた時代です。だからそう深刻ではありませんでしたし、多摩ニュータウンを含めて全国に大規模ニュータウンが次々生まれ、「郊外時代」がやってきました。やがて「ライジング・サン」ともてはやされた日本もバブル崩壊とともに、中国にそのお株を取られてしまいます。そして人口減少時代が数々の経済失策や後手に回った対策から本格化し、「限界集落」や「消滅都市」というセンセーションを呼ぶネーミングがメディアを席巻しました。そして東京一極集中はけしからんとなるわけです。人口移動がもたらす、人口の地域的アンバランスが生んだ怨嗟の声でしょうか。

実は分布のアンバランスは人口だけではありません。むしろ昔から言われてきたのは「所得分布」のアンバランスです。ゴルフの賞金王やプロ野球の契約金が毎年テレビで話題になります。最近はお笑い芸人の闇営業も話題になりました。スポーツ界も芸能界もスーパースターとそれ以外では、所得に雲泥の差ができるのです。ね。「銀メダリストとは金メダルを取れなかったアスリート」と揶揄に近い評価とその後の知名度や所得に反映してくる。「勝者総取り社会」は健全かどうか。グローバルなネット社会がそれを助長しているような気がします。スーパースターはどうやって生まれるのでしょうか。

## 1. スーパースターの経済

経済誌『フォーブス』は毎年3月5日に10億ドル以上の資産保有者を対象に長者番付を発表します。2019年は第1位がアマゾンの創始者、

第2位がマイクロソフトの創業者、第3位が世界的な投資家となりましたが、この3傑は順位が多少変わっても他を寄せ付けません。経済のスーパースターとして、時代を読む機知とタフな精神がその地位を揺るがないものになっているからでしょうか。軍事用に発明されたコンピュータ（高速で計算するだけの機械）がいつのまにかコミュニケーションの道具となり、やがてこれも軍事用に開発されたインターネットの端末の役割を担うことになりました。

一見子供だましのような新技術の将来性に誰も気づかないうちに目をつけ、そのビジネス化に成功した人を世界長者に祭り上げる時代がやってきました。GAF A (Google, Apple, Facebook, Amazon) も「小さな一歩」から歩みを開始した典型的な国際企業モデルです。ただし、そのあとに続く新興企業が大富豪へのチャンスを狙っています。未上場のスタートアップ企業、若々しい「ユニコーン」企業です。「創業10年以内」「評価額10億ドル以上」「未上場」「テクノロジー企業」といった4つの条件を兼ね備え成長が期待される企業を指します。4条件をクリアした「メルカリ」はさっさと上場を果たし、現在日本の企業で当てはまるのは「ディープラーニング」のトップランナーだけです。さみしい限りです。さて、このような幸運を運んでくれる要因は何でしょうか。発明（そのちょっとした改良も含めて）とは、幸運を約束してくれます。それは古今東西、共通した真実でしょう。かのガリレオ・ガリレイも望遠鏡のちょっとした改良で大儲けしています。ちょっとしたきっかけ、他人より半歩でも先を行くことが、幸運と重なって大富豪への道に導

くのです。あとは時代が後押ししてくれるのです。「たまたまの運も実力のうち」です。

それはともかく、どの分野でも「金メダル」を手にしたものが経済的報酬を「勝者として独り占め（ウイナー・テイク・オール）」することに注目しましょう。この傾向は（1）デジタル化の恩恵に浴し、複製が無制限に限りなくゼロに近い費用で可能であること、（2）通信と輸送技術の進歩で関連費用が急激に低下していること、（3）商品やサービスの標準化とネットワークのスケール効果で爆発的に市場が拡大すること、この3つが地球規模の市場を瞬く間に作り上げ、目に見えない速さで「スーパースター」を作り上げるのです。誰がソフトバンクの今日を予想できたでしょうか。評判を生んだ本『ザ・セカンド・マシン・エイジ』（日経BP社 2015年）はそう指摘しています。この3つの条件はIT企業ばかりでなく、スポーツビジネス、エンタメビジネスでも当てはまります。ですから、国際的に知名度の高いアスリートも、何万人もの観客を一会場に集めることのできる芸能人も、伝統的な大企業のCEO達をはるかに凌ぐ所得を稼ぎ出すのです。そしてまだまだ未知のチャンスが眠っていることも確かです。かつてはコンピュータの付属品（おまけ）でしかなかったソフトウェアが、ハードウェア（コンピュータ本体）の地位を奪った歴史があります。これも技術革新のたまもの。そして今はAI（人工知能）とロボティクスが、人々の雇用を脅かすという懸念が広がっています。新技術の約束する世界はスーパースターとそれ以外の人々に二極分化するのでしょうか。技術進

歩に倫理的制約はありませんから、賢い民主主義に裏打ちされた公的部門の役割はますます大きくなるはずです。

## 2. 格差を表現する・計算する

さて所得分布も含めて、不平等をビジュアルに見せるのは「ローレンツ曲線」です。それを数値化したものを「ジニ係数」といいます。ここでは所得分布ではなく、多摩地域の平成29年度の「自治体の歳入」で計算してみましょう。考えようによっては、統計的方法は幅広い議論に堪えることができるのです。

まず、30市町村の歳入総額を低い順に並べ替えます。それを6市町村ごとに第1区分から第5区分に分割し歳入総額を合計し、それぞれの区分の歳入総額構成比とその累計を計算します。そして表1のようにまとめます。

次に表1の自治体構成比と歳入構成比を使ってください。すると図1のようなローレンツ曲線が完成します。図1の下半分の三角形の対角

図1 ローレンツ曲線

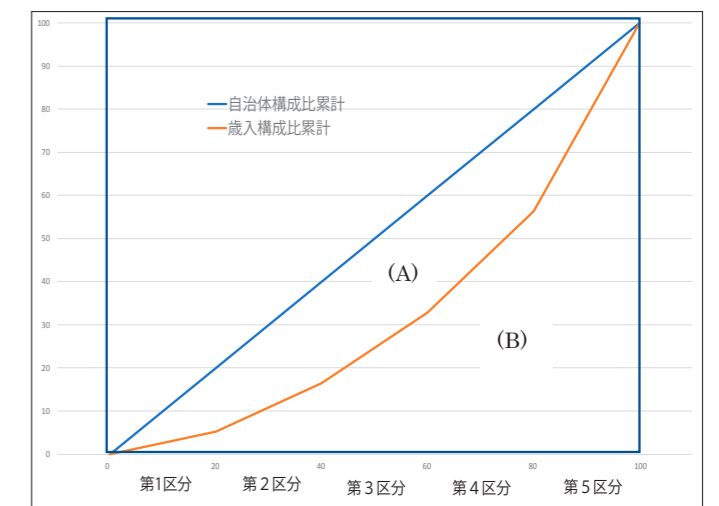


表1 多摩地域5グループの歳入総額（平成29年度）

区分	自治体数	歳入合計(千円)	自治体構成比累計(%)	歳入構成比累計(%)	自治体					
					檜原村	奥多摩町	日の出町	瑞穂町	羽村市	福生市
第1区分	6	84832879	20.0	5.3	檜原村	奥多摩町	日の出町	瑞穂町	羽村市	福生市
第2区分	6	181547782	20.0	11.2	狛江市	武蔵村山市	国立市	あきる野市	清瀬市	稲城市
第3区分	6	264211727	20.0	16.4	東大和市	東久留米市	昭島市	小金井市	青梅市	東村山市
第4区分	6	380118869	20.0	23.5	国分寺市	多摩市	小平市	武蔵野市	三鷹市	日野市
第5区分	6	704690326	20.0	43.6	西東京市	立川市	調布市	府中市	町田市	八王子市
合計	30	1615401583	100.0	100.0						